

開催し、向こう3年間の覚書を更新した。本大会を推進してきた本会の国際交流委員会は、平成7年10月には26名の訪中代表団を組織し、嶋久男理事長を団長に北京、洛陽、西安、上海を歴訪し、北京では北京大学と国家教育委員会(現、教育部)を表敬訪問した。中国側からは朱開軒閣下(文部大臣)を始め幹部多数が代表団を出迎えた。柳川会長からは島村宜伸文部大臣の親書が朱開軒閣下に手渡され、その夜、北京人民大会堂で晩餐会が催された。このあと代表団は西安における第2回弁論大会開催に赴いた。

(その他の国際交流事業)

また、平成8年9月に来日したドイツ・ベルリン自由大学(ゲルラッハ総長)と、日独留学生交換協定に調印し、国際化社会に向けた本会学術振興のヨーロッパへの展望を図らんとした。

第9代、西島会長の時代と創立60周年を向えて

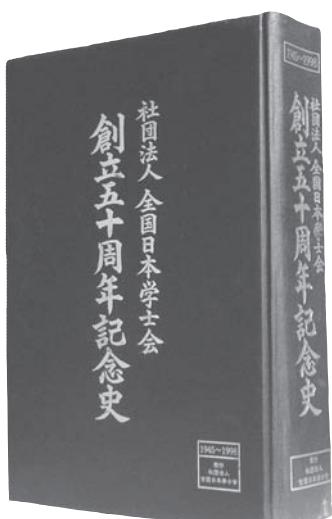
平成8年、創立50周年式典において、柳川会長は次期会長として西島安則・元京都大学総長を指名し、「ACADEMIA」の会旗を演壇上で渡した。京都に設立され、本部を京都に置き、久方ぶりの地元・京都大学出身の会長が就任されたことを役員会員一同は歓迎した。



第9代会長 西島安則氏

創立50周年記念史の発行

平成10年、創立50年記念史編纂委員会(委員長:西島安則会長)は3年の歳月を経て、本会創立からの詳細な記録史・記念史を発刊した。記念史は、第一部:戦後の50年と全国日本学士会の足跡、第二部:歴代会長の時代を語る、第三部:アカデミア賞受賞の人々、第四部:全国日本学士会の活動、第五部:資料・編集後記、の構成で編纂され、960頁に及ぶものとなった。平成10年11月には盛大な発刊祝賀会を京都で開催した。



創立50周年記念史

■ アカデミア賞授賞制度の改革

西島会長就任後の3年を経て、アカデミア賞審議委員会（委員長・西島会長）は、慎重なる審議の結果、従来の授賞規約の改定と、授賞巻頭言「アカデミアの由来」（藤沢令夫・京都大学名誉教授・ギリシャ哲学者寄稿）と諸規定を定め、選考基準の透明性と厳格な推薦制度を確立し、その授賞部門を文化部門・社会部門・国際部門の3部門とした。

新授賞制度は、平成11年より施行され、毎年2部門ないし3部門の各界の受賞者を平成17年までに、計24名の有識者・著名人を選考し、内外からの高い評価を得た授賞制度としてそのあり方を確立した。

授賞式には多数の会員と関係者が全国から参列し、式典後の祝賀会では受賞者からの記念講演を受けている。参列者は、受賞者の意義深い講演に大きな拍手を贈ってきた。



平成12年3月 アカデミア賞受賞者 左より大西正文氏、中坊公平氏、西島会長、千宗室氏、杉村尚氏



平成12年3月17日 アカデミア賞授賞式典参列者（京都・都ホテルにて）



平成11年3月 アカデミア賞受賞式
受賞謝辞を述べる藤沢令夫氏（京都大学名誉教授）



平成14年2月 アカデミア賞受賞者 左より明石康氏、
高野悦子氏、西島会長、清水司氏、真栄城理事長

■ 国際交流委員会の活動

（日本語普及事業）

平成9年～平成18年に至るまで、国際交流委員会（委員長、真栄城徳佳理事長）は第4回～第13回に亘る「陝西省大学生日本語弁論大会」を成功させ、日本と中国の相互理解と日本語普及を推進した。毎年、本会役員会員を初め日本語教育の専門家等の中国訪問と大会優勝者の訪日招聘という両国的人的交流を推進してきた。日本語学科を有する本科4年制大学、専科（夜間部、公立・私立短大）3年制大学の参加大学は増

加傾向にあり、本事業は定着し、本年は5回目の覚書の更新（第16回大会・平成21年まで）に調印した。

中国側からは
2008年北京オリ
ンピック記念、
第15回記念大会
として2年後に
は盛大に開催し
たいとの意向が
示されている。



第5回陝西省日本語弁論大会
(西安にて・西島会長)



第5回大会 開会挨拶をする西島安則会長（平成10年）



日本語弁論を聴く聴衆（西安交通大学講堂）

(日本語セミナーと日本企業説明会の開催)

一昨年より、現地・西安の日本語教育関係者の要望に応え、日本から派遣した日本語教育教授陣による日本語セミナー（ワークショップ）を開催してきた（平成18年10月で第3回）。

また、平成17年より、経済界から（財）経済広報センターの後援と支援を得て、日本の複数の大手企業（平成17年5社、平成18年9社）の協賛を得てきた。現地では、弁論大会の前日に日本語セミナー（ワークショップ）と併行して、就職学年の学生を対象に「日本企業説明会」を開催し、中国西部開発地域の要・西安の地で日本語を学ぶ多くの大学生に日本企業との接点の機会を提供している。大学生・教師からは、進路の選択や希望の実現の為にも、日本企業の考え方やその概要を知ることは極めて貴重かつ有意義な機会であると好評を得ている。



平成16年10月 第1回日本語教育セミナー（西安交通大学）
講師水谷修氏(名古屋外国語大学学長・元国立国語研究所所長)

■会誌アカデミアの発行

平成11年には、会誌「アカデミア」を、従来の学術新報アカデミア（年2回）と会員向け機関紙アカデミア（季刊誌）とを合体させ、昭和21年以来の会誌「ACADEMIA」へと編集方針を改めた。

会誌アカデミアは、隔月号として発行され、年4回を学術関係者による特集号（テーマ別特集）とし、年2回を講演記録や会員等による寄稿集とした。

偶数月の定期発行物とし、特集号は、時局を反映した特定のテーマと内容の深さを希求し、各界の専門家による優れた寄稿を得て、読者の広がりを得てきた。

また、本会活動内容を紹介する記事も逐次掲載され、会誌アカデミアの本会事業の上での大きな役割が定着した。



平成17年12月26日 第1回日本企業説明会
(西安外国语学院にて)

■ 支部活動の定着と新たな支部づくりへ

真栄城理事長は、支部活動の充実を本会活動の大きな指針とし、北海道支部、東日本支部、沖縄支部の設立と活発な活動を行なった。

とりわけ、沖縄支部（支部長、狩俣真彦・沖縄大学教授）は年2回の講演会と報告会を定着させ、支部会員の相互交流と親睦に貢献している。また、平成16年に発足した東日本支部（支部長、清水司・東京家政大学理事長）は、講演会と交流会を推進し、青森から東京にかけての会員相互の交流と親睦に貢献している。

創立60周年を迎える、関西地域・西日本地域・九州地域と新たな支部づくりの要望と更なる役員・会員の協力と努力が期待されている。

以上、西島会長の時代とこの10年の本会活動は、各担当役員・会員が一丸となり諸活動の充実と着実な発展をめざした結果、本会の歴史に新たな足跡を残し、公益法人として社会的貢献

を行う為の着実な成果を得たといえる。これは会長以下役員・会員の努力と協力の成果であり、今後の益々の発展と更なる展開が期待されている。



平成9年1月 沖縄支部「新春の集い」



平成13年7月 北海道支部講演会



平成16年9月 東日本支部発足記念式典